

東北・関東地域における検討結果のご報告

# Agenda

---

## 1. 次年度以降の活動方針に関する検討

参考 1. 知財創造教育普及に向けた論点

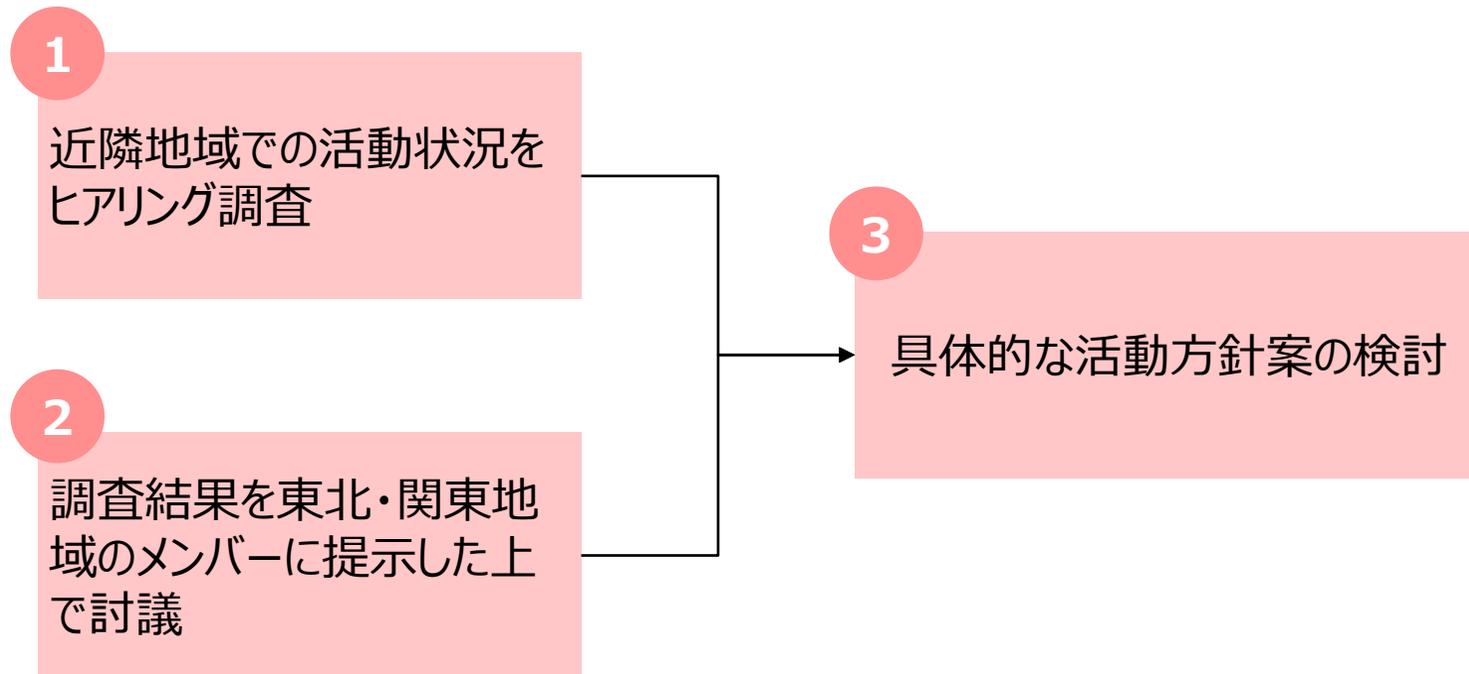
参考 2. 公開授業結果

---

# 1. 次年度以降の活動方針に関する検討

# 1. 次年度以降の活動方針に関する検討 検討プロセス

- 東北および関東の両地域において、次年度以降の活動方針を以下のプロセスで検討した。



# 1. 次年度以降の活動方針に関する検討 両地域のメンバー（敬称略）

## 東北地域

一般社団法人岩手県発明協会 主任	井旗 智子
NPO法人natural science 理事	大草 芳江
一関工業高等専門学校 教授	貝原 巳樹雄
一般社団法人岩手県発明協会 顧問	酒井 俊己
あきた知的財産事務所 弁理士	齋藤 昭彦
宮城教育大学附属中学校 教諭	西川 洋平
秋田公立美術大学 教授	藤 浩志
NPO法人アーツセンターあきた 事務長	三富 章恵

## 関東地域

日本大学 理工学部 教授 兼 板橋区教育委員会 委員	青木 義男
株式会社カジワラ 代表取締役会長	梶原 徳二
玉川大学 客員教授 兼 台東区教育委員会 委員	神田 しげみ
東海大学 総合社会科学研究所 知的財産部門長	角田 政芳
東京都立桜修館中等教育学校 教諭	原 直子
株式会社AI Samurai 取締役・弁理士	播磨 里江子
白百合学園中学・高等学校 教諭	森棟 隆一

# 1. 次年度以降の活動方針に関する検討 両地域メンバーから出た意見（抜粋）

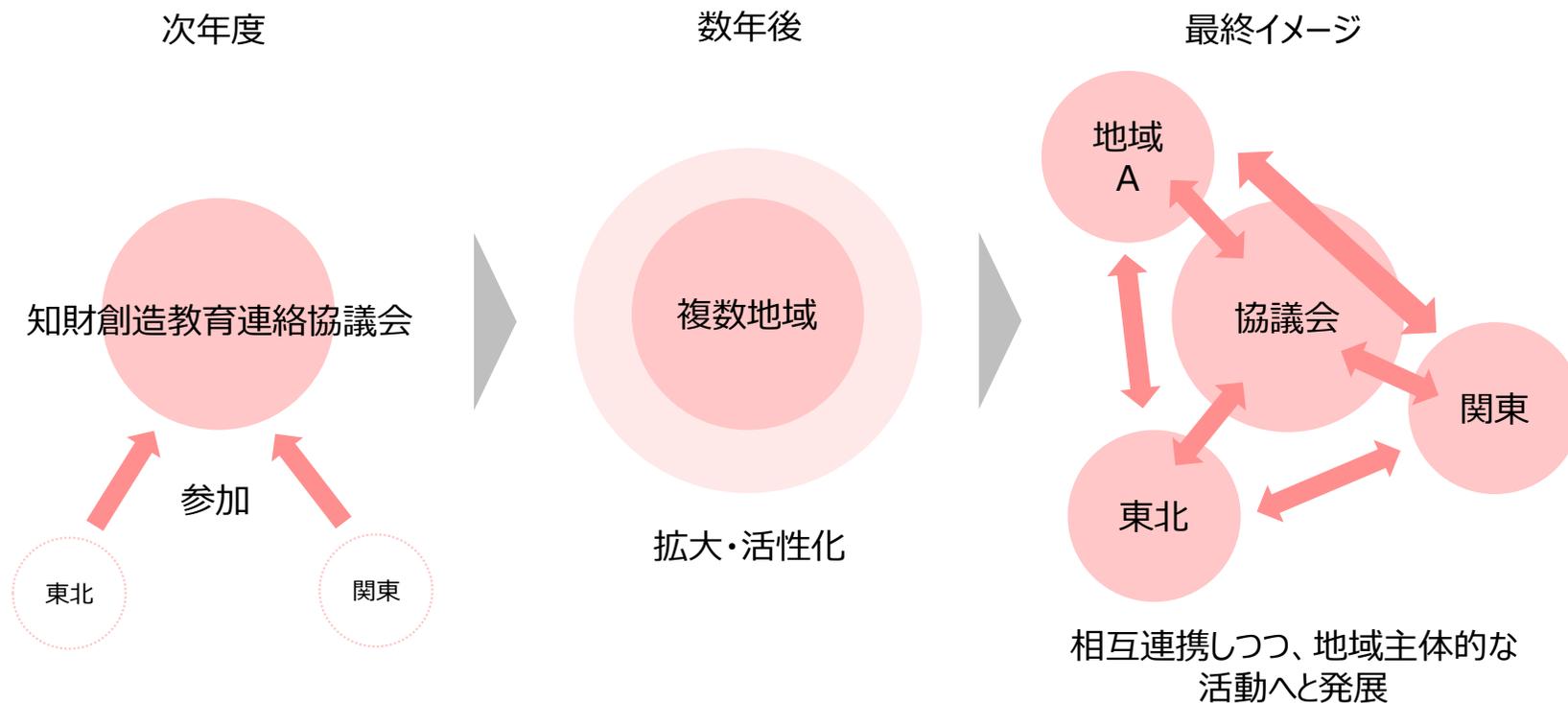
- 東北および関東地域において、前述の調査結果をたたき台として討議した結果、以下の意見があがった。
- 両地域とも、まずは知財創造教育連絡協議会の場を活用して、意見交換や実践共有等の場を維持・拡大していくことから始めていくことが良いという意見があった。

地域	観点	あがった意見の例
東北	方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>知財創造教育連絡協議会と連携して、まずは様々な地域のプレーヤーが実施しているメニューを共有していくことは有効である</li> <li>あわせて、東北の中でノウハウや研究実績を共有できる場があるとさらに有効であろう</li> </ul>
	有効な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>気軽にアクセスできるような場も用意しておいた方が良さそう</li> <li>情報が集まって活用されるようなプラットフォームが必要で、そこに事例やインタビュー記事等があると良い</li> </ul>
	役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業実践や教材検討等は、やはり現場の教員が担っていくのが良さそう</li> <li>知財創造教育と親和性のある外部団体であれば、周知・広報の視点では協力できるかもしれない</li> </ul>
関東	方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終的には市場から資金を調達し、予算を投じて拡大していく方向を目指していきたいと思うが、スタートに際しては資金に頼らずとも実施できる範囲で進めていくのが良いのではないだろうか</li> </ul>
	有効な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>よいモデルを作って、「こんなやり方がある」ということを現場の教員に示していくことが大変重要である</li> <li>まずは知財創造教育連絡協議会の中で活動していくということではよいが、並行して関東地域として何ができるかということも考えなければならない</li> </ul>
	役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携というテーマであれば、大学や各地域の教育委員等のメンバーが協力できることはあるだろう</li> <li>実践報告や教材検討等のテーマについては、やはり現場の教員が協力していくテーマであろう</li> <li>普及に関する役割は、教育関係のメディアと接点のある学校・教員を通じてアプローチしていくこともできるだろう</li> </ul>

# 1. 次年度以降の活動方針に関する検討

## 具体的な活動のイメージ

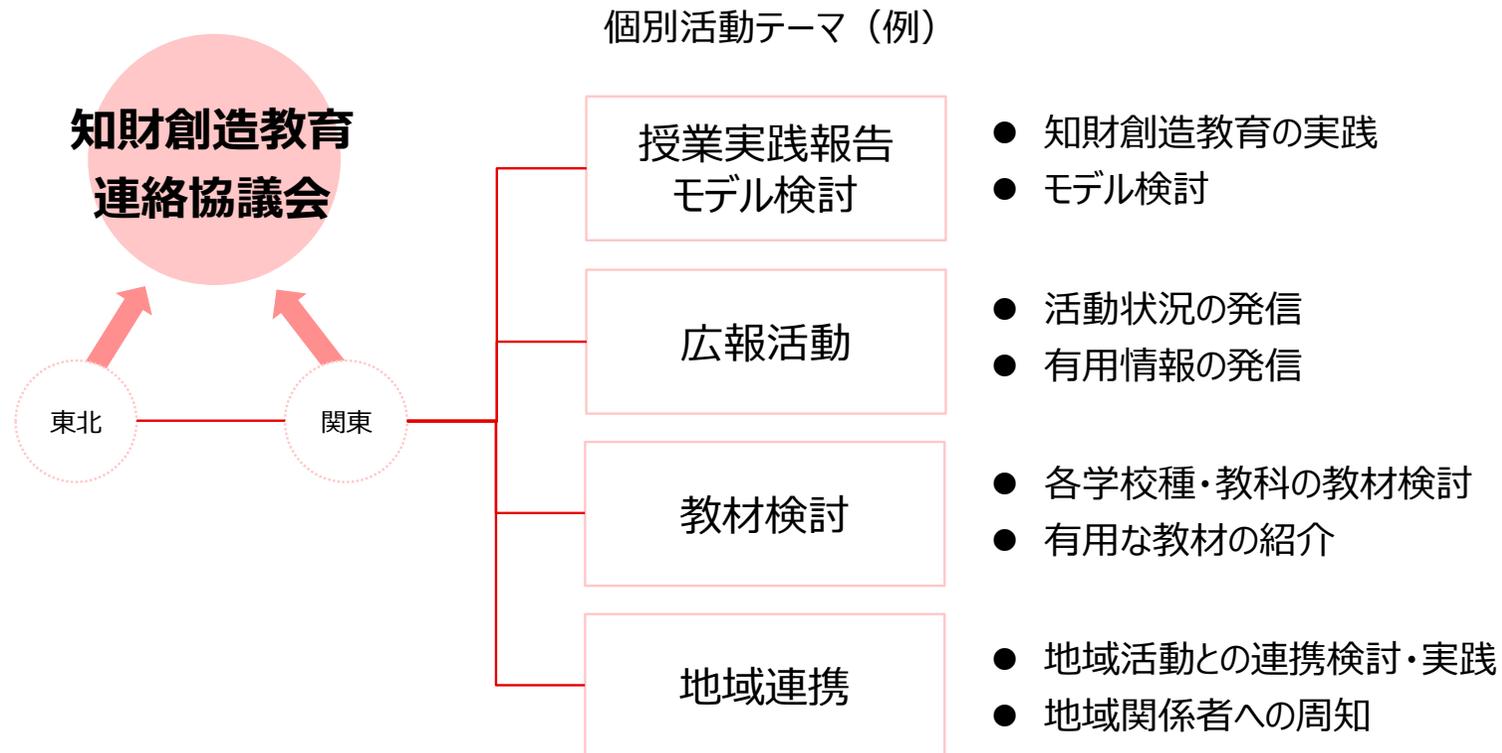
- 両地域において、まずは協議や意見交換、活動報告等を行う場を維持することが優先であるとの意見もあり、先行地域が立ち上げた知財創造教育連絡協議会の場を活用していく方向性が出された。
- 一方で、中長期的には両地域ともに独自色を出していくことも検討事項としてあがっており、知財創造教育連絡協議会に参加しつつ、その中で両地域ならではの取組を次年度以降に模索していく、という案も挙げられた。



# 1. 次年度以降の活動方針に関する検討

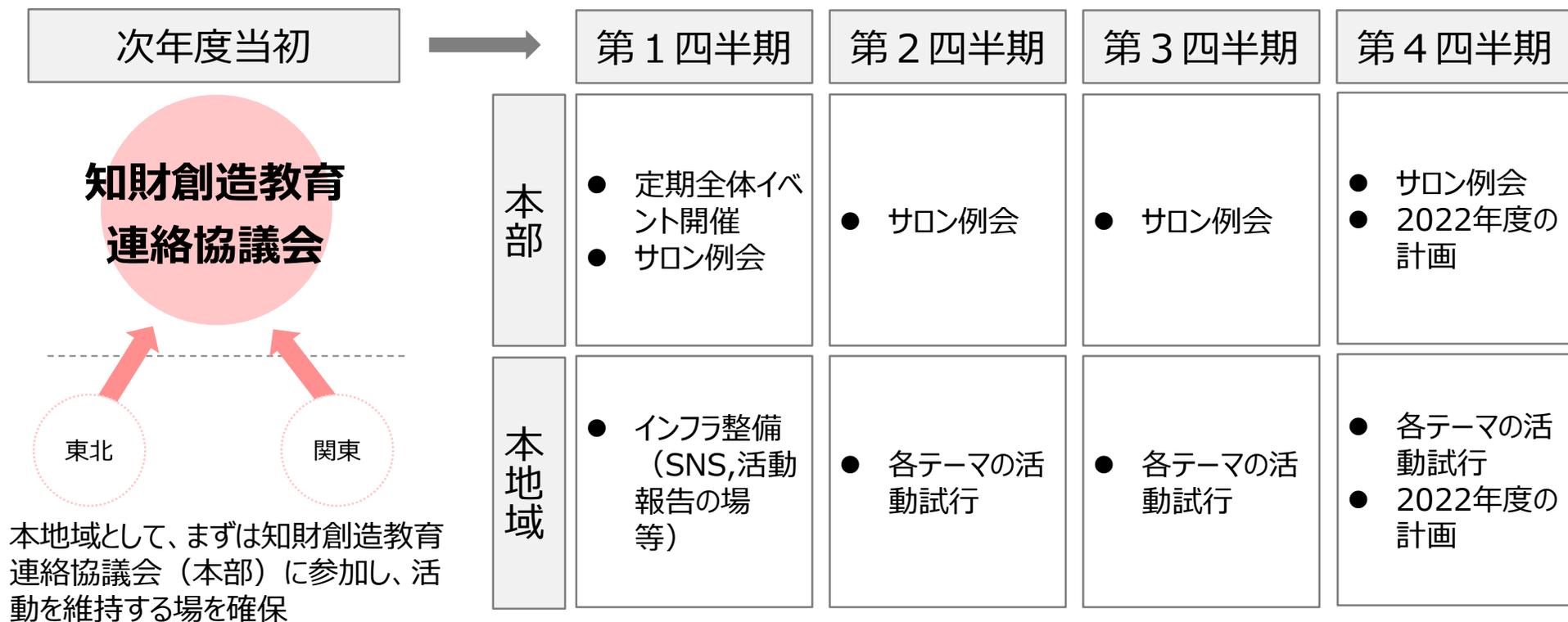
## 具体的な活動のイメージ

- 具体的な活動については、まずは知財創造教育連絡協議会に参加しながら随時検討・実行していくものであるが、例として以下に示すような「授業実践報告・モデル検討」「広報活動」「教材検討」「地域連携」等の個別活動テーマについても並行して検討・試行していく方向性が示された。
- 各テーマについて、主体的に活動できるメンバーを中心に活動していくこととなるが、前述の知財創造教育連絡協議会に参加をしながら検討していく方針となっている。



# 1. 次年度以降の活動方針に関する検討 具体的な活動スケジュール（案）

- 以下に示すスケジュール（案）で、本部において予定されている定期イベントサロン例会への参加を通じて継続して活動していくことを予定している
- また、前頁に記載したような本地域主体の活動は、第一四半期に活動インフラを（無償でできる範囲で）整備し、年度を通じて試行運用していく等のスケジュールで検討を進めていく。



※スケジュールはあくまでも例として記載したものであり、変動可能性がある

---

## 参考 1 . 知財創造教育普及に向けた論点

## 参考 1. 知財創造教育普及に向けた論点 知財創造教育の普及に向けて

- 両地域での検討結果を整理すると、知財創造教育の普及に向けて、少なくとも「関心を持ってもらうための仕掛け」と「行動へと移してもらうための仕掛け」の両面から今後施策を講じていかなければならないことが示唆された。
- 前者については、知財創造教育のコンセプトを正しく打ち出していくための仕掛けが必要ということであり、例えば以下のモデル図に示すような事項が求められる。
- 後者については、関心を持った教員が知財創造教育を導入するための道筋・ヒントを示すことが必要ということであり、例えば以下のモデル図に示すような事項が求められる。



## 参考 1. 知財創造教育普及に向けた論点 知財創造教育のコンセプト具体化

- 前述のようなプロセスで普及を目指していくにあたっては、知財創造教育のコンセプトを具体化することが必要という認識が得られている。具体的には、既に示されている「新しい創造をすること」、「創造されたものを尊重すること」を楽しみながら理解させ育むことにより、社会を豊かにしていこうとするもの」という知財創造教育のコンセプトを、もう一段階詳細化することが求められる。
- 両地域において、例えば以下に示すようなモデルとして知財創造教育のコンセプトを具体化していくことによって、学校全体で協力しながら知財創造教育を展開していく道筋を示すことや、教科横断的な取組等を交えながら知財創造教育を実践していくヒントになるのではないかという見解が得られた。

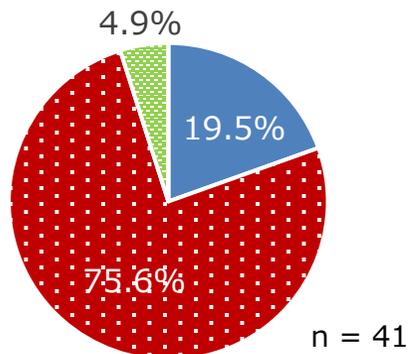


---

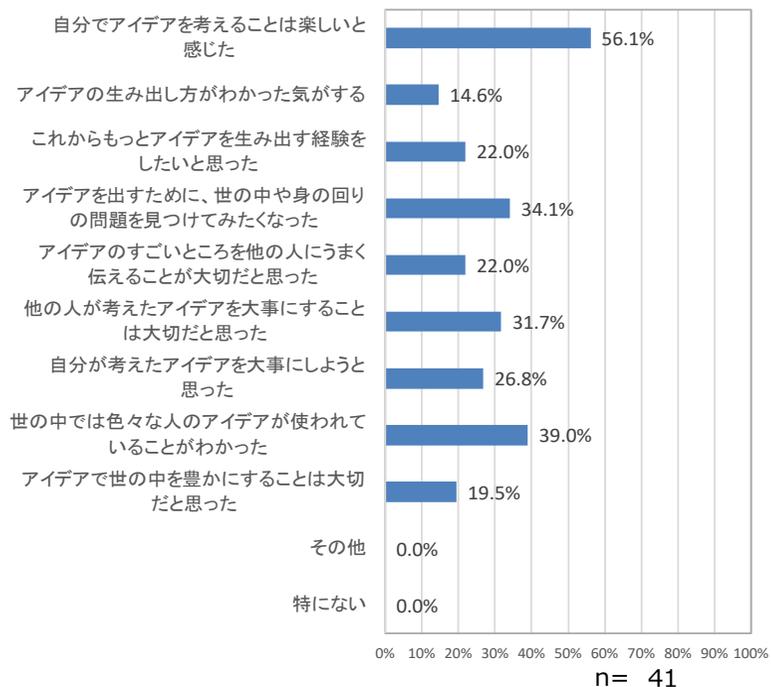
## 参考 2. 公開授業結果

# 参考 2. 公開授業結果 児童・生徒へのアンケート調査結果

一関工業高等専門学校



- 非常に興味深い内容だった
- 興味深い内容だった
- あまり興味をひかれない内容だった
- + 全く興味をひかれない内容だった



桜修館中等教育学校

